教科：国語　単元名：よんで　たしかめよう

学年：1年

タイトル

はつみみクイズをつくろう

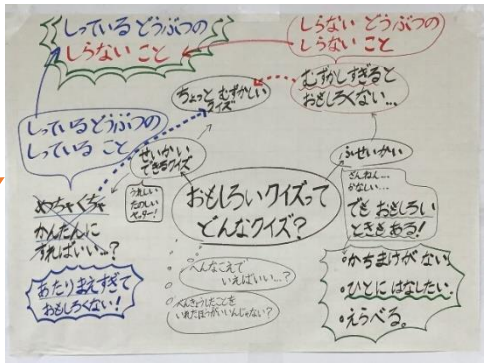
10のキーワード
・正式な依頼
・本気でごっこあそび

問いストーリー（単元の概要・児童への願い）

<教師のねらい>生活科の「土っ子ランド」の中で動物クイズを作る活動がある。クイズ作りの活動を国語科の文作り関連させて単元を構成した。「土っ子ランド」に招待する幼稚園・保育園生に、楽しんでもらうことを目的として児童はクイズ作りを行う。その中で児童一人一人が「面白いクイズが作りたいという願いを持ち取り組むため、どのようにクイズ作りを行うか、教科書教材と関連させて意識させていきたい。教科書教材「だれがたべたのでしょう」では、状況を伝える文に加え問いの文があり、ページをめくると答えに相当する文が記述されている。この教材は C 読むこと（1）ウの文章中の重要な語や文を考えて選びだすことがねらいである。だれが食べたかという問いに対して、ねずみと答えるのは問いと答えの呼応ではない。状況を伝える文の中にある状況に対する答えが状況を表す文として記述されており、その中から選び出すことによって、最初に読んだ際の状況の理解が深まる仕掛けになっている。この教材文を基にしてクイズを考えた際、「だれがくるみをたべたのでしょう」「ねずみです」という問いと答えの呼応ではく、「穴の開いたくるみのからがおちています」と状況を表す文を問いに見立て、「ねずみはからにあなをあけてからたべます」の文章が答えになるようにする方が、クイズとして内容があり面白いことに気付かせたい。その後、実際のクイズ作りが展開される場面では、B書くこと（1）アをねらいとし、校外学習で訪れた動物園で取材した内容や、本等で調べた内容をもとにして、教科書教材で学んだように、状況を説明するために書くことを見つけ、必要な事柄を調査して、問われていることと答えが明確になるようにクイズ作りを通して書く力を身に付けさせたい。

<主体的に取り組む児童の姿>本単元は生活科の「土っ子ランド」で行う動物クイズの作り方を国語科の学習と関連させて行う。クイズは題材が多岐にわたるが、前提として相手に対して何が問われているか伝わらないといけない。画像や映像、音声を用いる場合でも、基礎となる国語の能力は必要である。そのため「問い」となる文により相手に何が問われているかが伝わり、それに対する答えとその説明ができることを通して言葉の力を身に付けられると良い。そのため、園児にとって面白いクイズにしようという目標を掲げ、面白くするためにはどんなクイズにするとよいか想像し、それに必要な事柄を集めて、確かめながらクイズ作りに夢中になることを想定している。このことにより、B（1）アに掲げる、「想像したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にする」というねらいに近づけると感じる。

と考える。また、児童が作った問題を読みきり、整合性をとることに時間がかかり、アドバイスに時間を回しきれなかった点も課題として残る。ループリックを活用したり、あらかじめ資料に目を通したりする等の工夫改善を行いたい。

単元計画

	授業概要
1	学習の見通しを持つ。目的と問いを明らかにする。 「おもしろいクイズ」とはどんなクイズかを考える。 ・シンキングツール（イメージマップ：模造紙） ・学習計画表（A1用紙）
2～4	説明文の仕組みを理解し、教科書の内容を読み取る。 教科書の問いと答えの文を確認した後は、読書・クイズ試作の時間。 ・読み取りワークシート・クイズ作りワークシートを作成する ・図書室から動物の図鑑・本を学年に貸し出してもらう。
5・6	調べ学習・クイズ作り・発表練習を行う ・クイズ作りワークシートを作成する
7 （本時）	発表・振り返り ・グループを作り、ローテーション形式で一人複数回発表